

科目名 (Eng)		製品開発論 (Research and Development of Product)								
担当教員		脇田淳一								
対象学年等		学科・専攻・学年		授業期間・区分・単位数・時間数			分野	形態	学修単位科目	
		ビジネスコミュニケーション学専攻	2	後期	必修	2	(30)	専門	A	○
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(B-4-関)，(E-3)，(E-4)									
	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：2)，5)									
授業の概要と方針		製品開発を効率的に行うためのプロセス設計、組織化の方法、マネジメントの方法、製品戦略などを系統的に学習する。								
到達目標		①効率的な製品開発システムを理解する。 ②自ら考えて企画、設計、課題解決するシステムデザイン能力を身につける。								
授業計画										
	週	授業項目			理解すべき内容			事前学習		
後期	16	イントロダクション			概要と授業ガイダンス			教科書の予習		
	17	製品開発マネジメント(1)			時間競争と製品開発					
	18	製品開発マネジメント(2)			製品開発のあり方					
	19	製品開発プロセス(1)			製品開発プロセスの工程と対象領域					
	20	製品開発プロセス(2)			製品開発のタイプ					
	21	コンカレント・エンジニアリング(1)			コンカレント・エンジニアリングの目的と経緯					
	22	コンカレント・エンジニアリング(2)			コンカレント・エンジニアリングのフレームワーク					
	23	知的財産権(1)			特許権と実用新案権					
	24	知的財産権(2)			意匠権と商標権					
	25	製品戦略論(1)			プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント					
	26	製品戦略論(2)			製品開発ポートフォリオ・マネジメント					
	27	品質管理・保証技術(1)			品質機能展開とパラメータ設計					
	28	品質管理・保証技術(2)			品質システムとISO9000, ISO14000					
	29	製品ライフサイクル設計とコスト			製造容易性設計と生産設備設計					
30	学習したことの総括			後期期末試験解答用紙の返却、解説						
試験について		期末試験は100分の試験を実施する。								
評価方法		定期試験の成績を80%，課題の成績を20%で評価する。								
教科書		製品開発論 圓川隆夫、安達俊行、日科技連								
参考書		現代生産管理 工藤市兵衛他 同友館								
関連科目		生産管理論								
履修上の注意		生産管理の基礎を理解しておくことが必要。 自学自習の確認方法－課題プリントを学生に配布し、提出させる。								